

會 務 報 告

第 29 卷 第 10 號 昭和 15 年 10 月

役 員 會

第 12 同 理 會 (昭. 15. 8. 5.)

出席者 中村會長, 谷口, 吉田兩副會長, 和田理事外 2 名, 中村書記長 外 3 名。

報 告

1. 西部支部に於て土木技術夏期講習會を開催。
2. 北海道支部に於て昭和 15 年度支部大會を開催。
3. 日本工學會評議員會議事。

議 事

1. 土木工業協會申出の同會雜誌へ鐵筋コンクリート標準示方書掲載の件は本會發刊の同示方書購讀方を懇願することとせり。
2. 土木學會誌の營業廣告掲載廢止に就いては時局下不得已ものと認め常議員會に諮ることに申合せり。
3. 水理公式調査委員會委員に次の諸君を依頼することとせり。

阿部一郎君	伊藤剛君	渡部彌作君
福田秀夫君	市浦繁君	鶴飼孝造君
松岡又二君	米屋秀三君	横田周平君
杉戸清君	鷹田正人君	田中淑造君
野中八郎君	内林遠一君	黒田静夫君
松尾泰雄君	佐藤清一君	(囑託)

13 同 理 會 (昭. 15. 9. 9.)

出席者: 谷口副會長, 稻葉(通)理事外 3 名, 中村書記長外 3 名。

報 告

1. 北海道支部第 13 回役員會議事並役員更迭

退任	新任
商議員 小野諒兄君	商議員 佐伯利吉君
〃 齋藤靜脩君	〃 町田利臣君
〃 千秋邦夫君	〃 小田豐次郎君
幹事 安藝貞孝君	幹事 高橋敏五郎君
〃 瀨田一雄君	〃 笠谷孝君

2. 東北支部第 13, 14 回役員會議事並役員更迭

退任者	新任者
商議員 三島卯四郎君	商議員 岡崎信雄君
〃 宮本保君	〃 清野暢三君
〃 近藤信一君	
幹事 中津海慎二君	幹事 近藤信一君

議 事

1. 北海道支部内規を次の如く變更及附則承認。
第三條 大會ハ毎年一月其他必要ニ應ジ之ヲ開ク
附 則
1. 昭和十五年七月ニ選舉セラレタル支部長ハ昭和

十七年一月ノ大會ニ於テ之ヲ改選スルモノトス

1. 昭和十四年七月ニ更代シタル商議員ハ昭和十七年一月ニ昭和十五年七月ニ更代シタル商議員ハ昭和十八年一月ニ更代スルモノトス

2. 中部支部の内規を次の如く變更承認

第一條 支部ニ支部長ノ外左ノ役員ヲ置ク

評議員二十名, 幹事長一名, 幹事五名

3. 水理公式調査委員會委員に山本三郎君, 山内一郎君を依頼することとせり。

4. 滿洲國立中央圖書館へ會誌其他刊行物を交換的に寄贈することとせり。

5. (北京) 東亞文化協會會調查科へ會誌其他刊行物を交換的に寄贈することとせり。

6. 8 月入退會を別記の通り承認。

7. 講演及映畫の會を 10 月下旬開催太田尾廣治君及石射猪太郎君(前關國公使)に講演を依頼することとせり。

8. 商工省工業品規格統一調査會諮問の電弧熔接工資格檢定規格案に對する意見を別紙(省略)の通り回答することとせり。

總 務 部 記 事

土木學會文化映畫委員會小委員會 (昭. 15. 7. 31.)

出席者: 青木委員長, 片平委員。

1. 三國國道映畫“第 1 篇”タイトル製作に就き打合せり。

土木學會文化映畫委員會 (昭. 15. 8. 3.)

出席者: 青木委員長, 瀧尾委員外 3 名

1. 7 月 25, 26, 27 日の 3 日間, 三國國道(9 號國道)改良工事の映畫撮影のため, 青木委員長, 片平, 下山兩委員現地に出張。

2. 新興映畫會社に於て, 淡濱船を背景とする映畫製作に關し, 内務省横濱土木出張所に依頼し便宜を與へたる旨片平委員より報告。

3. 三國國道改良工事映畫の試寫を行ひ, タイトル及編輯の方針を決定。

土木學會文化映畫委員會 (昭. 15. 8. 14.)

出席者: 青木委員長, 瀧尾委員外 3 名, 徳丸君, 越智君(横濱シネマ), 小野寺庶務主任。

1. 新興映畫會社製作映畫“嵐に花は散らず”の試寫會に青木委員長, 瀧尾委員外 2 名, 及徳丸君臨席, 淡濱船の取扱に關しては不適當の箇所なしと認めたり。

2. 横濱シネマ越智健次君より“水”に關する文化映畫シナリオの依頼あり, 懇談の上小委員會に於て之

を作製することとせり。

3. 映畫三國々道のタイトル製作を横濱シネマ越智君に依頼することとせり。

4. 十字屋文化映畫部申入れの“道路”に關する文化映畫の製作援助に就いては金子委員に一任す。

5. 新興映畫會社“嵐に花は散らず”のカットフィルムを寄贈ありたり。

第3回定款改正委員會 (昭. 15. 8. 5.)

出席者: 辰馬委員長, 金子委員外4名, 中村會長, 吉田副會長, 瀧尾理事外1名, 中村書記長外3名。

滿洲土木學會定款其他に關し設立準備委員より疑義の諸點に就き回答なきため具體的の審議は延期することとせり。

第4回定款改正委員會 (昭. 15. 9. 13.)

出席者: 辰馬委員長, 谷口委員外3名, 中村會長, 吉田副會長, 瀧尾理事, 中村書記長外2名。

1. 滿洲土木學會設立準備委員より同會定款及規則の疑義の點に關し回答ありたるを以て逐條審議を行ひ訂正條文を通報することとせり。

2. 滿洲土木學會と提携に伴ふ本會定款及規則の改正を審議する爲め9月16日第5回委員會を開催することとせり。

外人功績調査委員會 (昭. 15. 9. 11.)

出席者: 眞田副委員長, 安藤委員外6名, 江澤囑託中村書記長外1名。

1. 眞田委員長より漸く脱稿を見るに至りたる次第を説明し序文に就いては茂庭委員に於て一應閱讀することとせり。

2. 本の題名を「明治以後吾邦土木界に盡せる外人」とすることとせり。

3. 製本は菊版五號組とし(約270頁に仕上る見込)500部作製し關係者に寄贈することに申合せり。

4. 寄贈先は大體別表(省略)の通り申合せり。

編輯部記事

第9回會誌編輯委員會 (昭. 15. 9. 11.)

出席者: 廣瀬委員長外13名。

1. 第26卷第9號登載原稿謝禮を決定。

2. 第26卷第11號登載原稿を次の如く決定。

論說報告: 軌條の撓みに就て(會, 板橋三郎), 最高強度コンクリートの製造に就て(會, 工博吉田徳次郎), 撓角撓度法による構造物の安定論(其の二)(會, 樋浦大三)

彙報: 特殊緩和曲線の數値表(會, 江藤禮)

抄録: 航空港設計の基本要件, 圓形小流出口の流量係數, Hele-Shaw 氏の裝置を利用

せる地下水の實驗, 非常に細い管を流れる粘性流體の不定流, アメリカコンクリート調査聯合委員會「コンクリート及鐵筋コンクリート標準示方書」の改正に就て, 粗なる管内の流れ, 滑らかなる平行境界間の流れ及び滑らかなる管内の流れ, 熔接継目の熱應力及其の疲勞限度に及ぼす影響に就て, 變断面鉄桁の變形量計算, 鹽素處理の問題と進歩, 促進汚泥法に於ける溫度並に促進汚泥濃度の影響, 長さの異なる杭を用ひた杭打基礎の設計

調査部記事

杭の支持力調査委員會主査會 (昭. 15. 8. 10.)

出席者: 青山委員長, 西田委員外2名, 中村書記長外1名。

議事

1. 當山委員より, 文獻調査の結果を表として報告あり。

2. 青山委員長の提案により, 次の事項を西田, 當山兩委員に依頼する事とせり。

1. 文獻により蒐輯せる現在杭打公式の比較。

2. 杭打試驗結果と公式との比較

水力公式委員會第1回水力部會 (昭. 15. 8. 28.)

出席者: 高橋主査, 安藝, 木間兩幹事, 松岡, 市浦委員, 横田部幹事

第1回總會に於て決定せる方針に基き, 水力部會に於て擔當すべき項目に就き市浦委員原案を審議し, 擔當項目案を決定せり。

東北支部記事

第13回役員會 (昭. 15. 7. 27.)

出席者: 金森支部長, 三島商議員外11名, 内田幹事長, 門澤, 庄司兩幹事

議事

1. 秋季行事に關する件

第14回役員會 (昭. 15. 8. 27.)

出席者: 金森支部長, 三島商議員外5名, 内田幹事長門澤, 庄司兩幹事, 鶴見前支部長

議事

1. 秋季行事計畫に關する件

2. 商議員缺員補充に關する件(理事會記事參照)

北海道支部記事

第12回役員會 (昭. 15. 7. 26.)

出席者：小野支部長，杉森商議員外 2 名，大坪幹事長，安藝幹事，神保前支部長。

3. 特別員勸誘の件

4. 古藤猛哉氏に記念品贈呈の件

報 告

- 1. 昭和 15 年度支部大會の件。
- 2. 本年度後期交附金に關する件。

そ の 他 記 事

議 事

- 1. 商議員及幹事更迭の件（理事會記事參照）
- 2. 地方委員異動の件

土木學會誌第 26 卷第 8 號を發行成規の手續を了し全會員に配布せり。

入 會 及 轉 格 會 員

(敬稱を略す)

特 別 員 (入 會)

朝鮮セメント株式會社

中 安 閑 一 總 田 正 彦 下 村 義 一 緒 方 茂 夫
 西 村 義 一 窪 木 範 二 倉 石 宏 2 級

會 員 (入 會)

青 山 清 朝 倉 吉 太 郎 天 野 武 一 門 倉 伊 三 郎 金 堂 林 西 東 慶 治
 村 山 正 雄 安 田 晴 彦

准 員 (入 會)

青 井 忠 一 石 川 金 治 石 澤 正 石 松 正 義 泉 谷 正 男 大 山 和
 大 山 綱 俊 岡 賢 二 奥 村 德 太 郎 長 田 信 秋 梶 原 重 保 片 野 文 男
 佐 藤 一 郎 坂 本 一 豊 澤 田 進 下 條 良 庄 司 勝 治 多 田 一 雄
 高 橋 一 郎 竹 田 吉 太 郎 柄 原 博 内 藤 正 一 久 常 準 也 松 野 重 雄
 三 浦 英 一 三 好 滋 森 川 德 長 柳 原 喜 八 郎 和 田 豊 夫

學 生 員 (入 會)

石 崎 幸 政 佐々木 芳 雄 土 屋 良 吉

會 員 (轉 格)

青 島 弘 青 山 二 郎 麻 生 謹 三 荒 木 忠 義 井 山 安 藏 居 川 太 朗
 池 田 芳 信 石 川 長 雄 石 田 義 男 市 浦 繁 市 川 芳 次 市 來 惟 義
 上 原 要 三 郎 江 川 信 雄 江 澤 金 太 郎 江 田 福 次 速 藤 一 雄 大 江 勘 太 郎
 大 菅 宗 一 大 津 弘 夫 大 槻 利 夫 大 森 頼 雄 太 田 政 之 助 片 山 泰 雄
 金 岩 明 金 澤 義 之 介 上 島 仁 左 川 邊 正 人 河 村 長 一 郎 北 川 昇 郎
 吉 川 幸 男 黑 井 俊 治 小 池 譽 小 林 庄 平 小 林 幹 小 林 八 二 郎
 小 林 雄 二 郎 小 松 忠 光 後 藤 正 美 近 藤 愛 知 佐 伯 幸 雄 佐 々 木 一 雄
 佐 瀨 七 郎 佐 田 悅 二 佐 藤 誠 佐 藤 康 治 嵯 峨 山 富 士 男 坂 本 信 雄
 櫻 井 亨 清 水 修 吉 篠 田 弘 之 杉 原 行 二 高 野 務 武 内 修
 武 田 通 治 谷 川 會 治 玉 木 寅 彦 達 磨 省 吾 中 野 順 太 郎 中 村 乙 八
 中 山 純 一 夫 永 田 肇 檜 村 邦 雄 新 島 幸 雄 野 中 八 郎 野 町 利 人
 福 田 秀 夫 逸 見 尙 義 橫 雄 治 增 田 清 三 郎 松 尾 英 敏 三 島 勇
 水 野 鉉 三 森 茂 吉 田 秀 一 吉 田 義 男 好 井 宏 海 米 屋 秀 三

准 員 (轉 格)

嶋 田 明 田 卷 昌 雄 土 田 健 吾

土 木 學 會 々 員 數

(昭. 15. 9. 16. 現在)

會 員	准 員	學 生 員	特 別 員	贊 助 員	合 計
3 473	5 011	1 306	101	26	9 917

會 員 荒川惠助君, 片山貞松君, 和田清三郎君の訃報に接す, 本會は恭しく哀悼の意を表す

准 員 馬場謹吾君, 平佐誠朗君, 吉富安郎君の訃報に接す, 本會は恭しく哀悼の意を表す

學 生 員 村岡豊也君の訃報に接す, 本會は恭しく哀悼の意を表す

會 告

講 演 會

下記の通り講演會を催します、御繰合せ多數の御來會を希望致します。

日 時： 昭和 15 年 10 月 18 日 (金曜日) 午後 5 時

會 場： 帝國鐵道協會 (麴町區丸ノ内 3 の 4)

講 演： 阿弗利加及南米を旅して

東京市港灣局 會員 太田 尾 廣 治 君

新體制に就いて

貴族院議員 男爵 井 田 磐 楠 君

晚餐會： 講演終了後午後 7 時より同所に於て有志晚餐會を催します、多數の御出席を希望致します。

會費 金 2 圓 50 錢 (當日受付で頂きます)

土 木 學 會

會 告

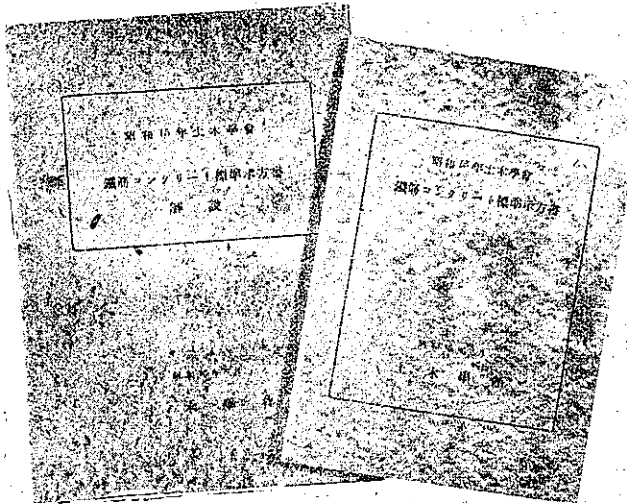
昭和 15 年 土木學會 鐵筋コンクリート標準示方書及解説

示方書

四六版

解 説

菊 版



定 價

示方書と解説

2冊にて

1圓20錢

送料

2冊にて 9錢

會員に限り

學會負擔

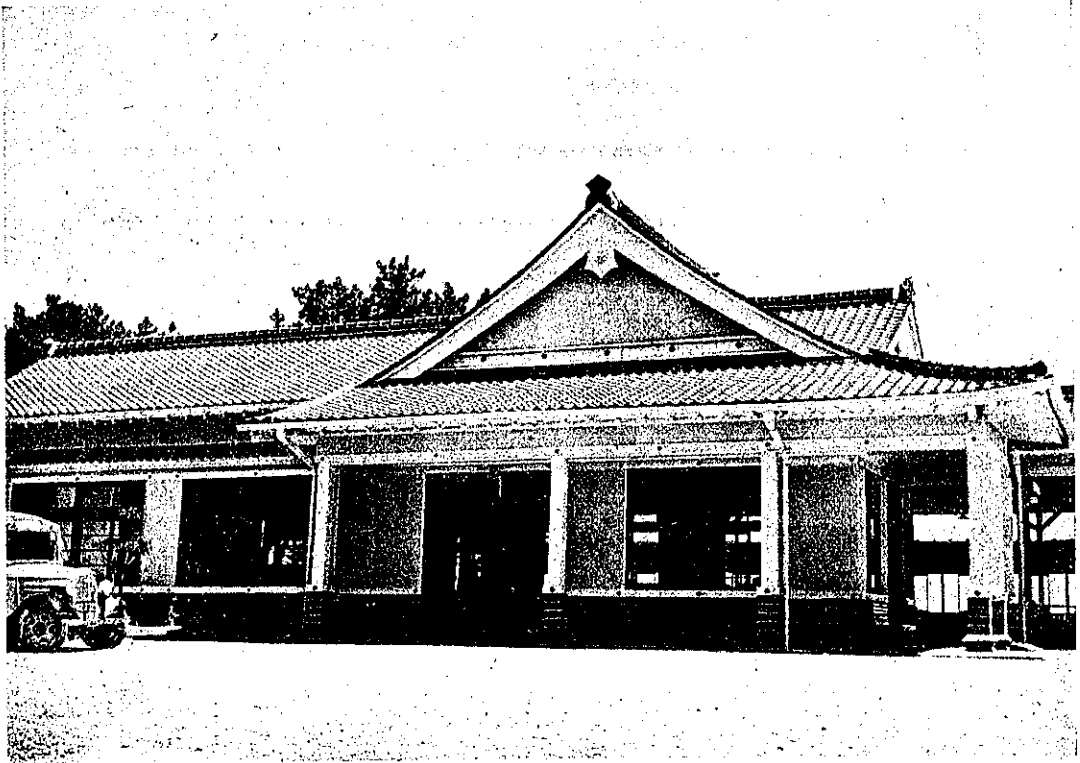
昭和 6 年土木學會鐵筋コンクリート標準示方書が制定されて以來、鐵筋コンクリートの設計及施工の發達は其の内容に改正を要する點の多きを認め、昭和 11 年一部の改訂を行ひ引續き内容一般の改訂に關し調査研究の結果、昭和 15 年版を發刊致しました。

今回は特に携帯に便利なる様製本し、定價も示方書と解説 2 冊にて 1 圓 20 錢の特價にて頒布することに致しました。御希望の方は本會宛御申込を願ひます。

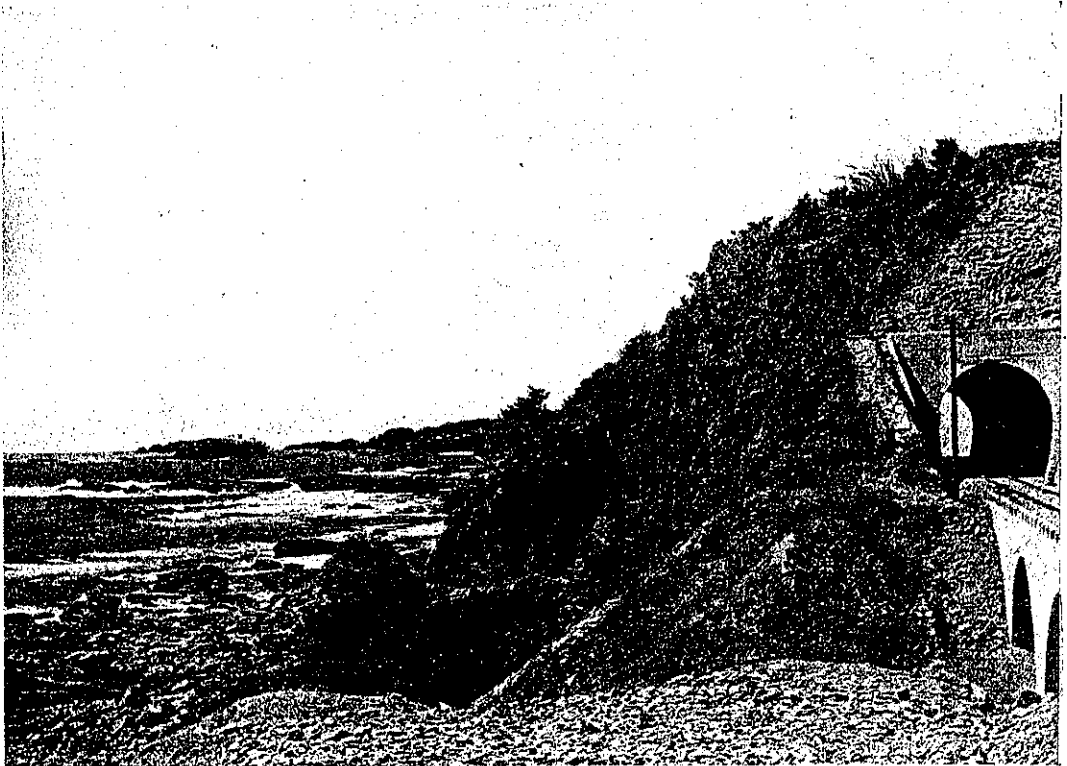
土 木 學 會

全通せる紀勢中・西兩線 (其の1)

新 宮 驛

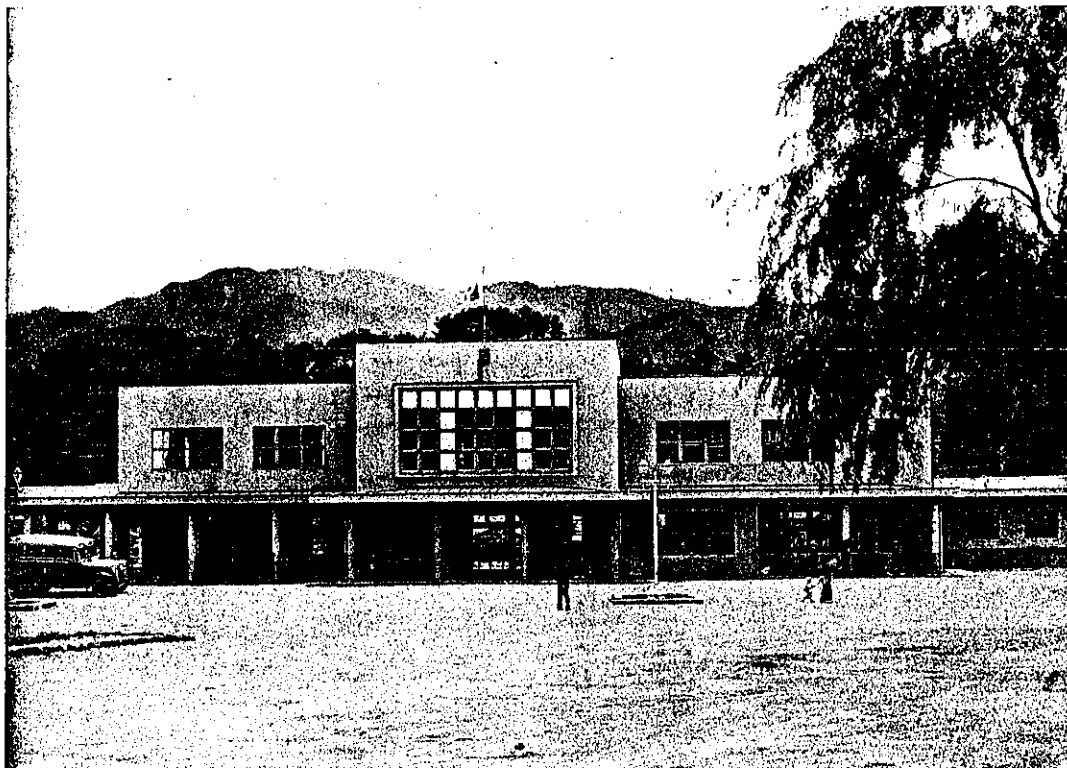


和歌山起點 146^k 280^m 和深驛附近



全通せる紀勢中・西兩線 (其の2)

那 智 驛



149^k 400^m 附近 (遙に串本を望む)



圖書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の圖書及雜誌は本會圖書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから、御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、自7月21日至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時
自1月4日至7月20日

但し 日曜及祭日は休み

圖書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の圖書雜誌を整理し、圖書室を設備致してあります。又本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介致して居りますから、會員の著書其の他圖書雜誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 寸法徑 14 mm
2. 品種 洋白地金文字浮出し
3. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す)



(價 每大)

寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
 2. 頁數 頁數は本會の本會誌 15 頁(原稿用紙 90 枚)以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
 3. 文體 文體は文章的口語體とす。本文に重要な関係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基づき適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
 4. 書體 横書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば n と u , u と v , r と v , a と α , r と γ , d と δ , その他 C と c , K と k , O と o 等頭字と小字とを判然たらしむる事。
 5. 數字名數 數字は 3 桁毎に間隔をきける專名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。
例へば
35 錢(三十五錢), 13.56 圓(十三圓五十六錢), 1~4 時間(一時間乃至四時間),
88 326 t(八萬八千三百二十六噸), 昭. 14. 1. 1.(昭和十四年一月一日),
m(米), m^3 (立方米), kg(珔), 83.4 尺(八丈三尺四寸)
 6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し(本會制定用語は本會發行の土木工學用語集参照)。
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
 7. 圖表 (1) 圖表は圖-1, 表-1 等と書き圖表題を記すこと。
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。
(3) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシングペーパー, オイルペーパー, トレーシングクロス等とすること。
(4) 圖表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。
(5) 方眼紙は青野のものを用ひ(黄色, 赤色の罫は使用せざる事)縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。
(6) 圖表の文字數, 字は特に大きく書かれ度し, 縮寫の標準は $1/2 \sim 1/5$ 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し。
(7) 圖表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
 8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
 9. 其の他 (1) 論說報告は邦文に限る。
(2) 講演及論說報告には必ず英文表題及邦文要旨並に著者の職名勤務所名を添附され度し。
- 附記 (1) 論說報告, 彙報, 時報, 抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。
(2) 講演, 論說報告の各欄に掲載の分には別刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に應じます。

會員轉居轉勤の場合の御注意

御轉居又は御轉勤の場合は即時明細に御通知下さる様御願ひ致します。

會費納付に就き御注意

會費	會員種格	會費年額	第1期分 (1月~6月)	第2期分 (7月~12月)
	會員	金 12 圓	金 6 圓	金 6 圓
	准員	金 9 圓	金 4.50 圓	金 4.50 圓
	學生員	金 6 圓	金 3 圓	金 3 圓

新入會者は月割計算とす。

納期	第1期分：3月	第2期分：9月
納付方法	集金郵便を差向けますから旅行等にて御不在の場合でも拂込に支障なき様御配慮願ひます。 振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。 朝鮮滿洲の一部等、振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄に爲替その他の方法に依り御送金を願ひます。 會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知を願ひます。	
未納の場合	集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は遺憾ながら定款第 13 條に依り會誌の配布を停止せられることがあります。	

會誌未着の場合の御注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏れなく配布致しますから、未着の場合には一應本會に御照會願ひます。

發行後相當日數經過しての御申越は時に殘部皆無となり再配布不可能の場合があります。

既刊會誌殘部内譯

(* は残部有るものを示す)

卷 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部) (圓)
6	—	—	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	—	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	1.00
18	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
19	*	*	*	—	*	*	—	*	*	*	*	*	1.00
20	—	—	*	—	—	—	—	—	*	*	*	*	1.00
21	—	—	*	*	*	*	—	—	*	*	*	*	1.00
22	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
24	—	*	*	*	*	*	—	*	*	*	—	*	1.00
25	—	*	—	—	*	—	*	*	*	*	*	*	1.00
26	—	*	—	*	—	—	*	*	*	*	*	*	1.00
第 20 卷第 12 號 (創立 20 周年記念號)													1.50
第 21 卷第 7 號 (會誌索引付)													1.30
大正十二年關東大地震餘害調査報告書 (1, 2, 3)													18.00
鐵筋コンクリート標準示方書													1.20
同上解説													1.20
土木工學論文抄録第一輯													3.50
土木工學論文抄録第二輯													5.00
土木學會誌索引 (第 1 卷第 1 號~第 20 卷第 12 號)													0.50
土木工學用語彙													2.50 (會員に限り 1 割引)

上記残部會誌其の他の刊行物御希望の場合は所定金額を振替口座東京 16828 番にお拂込み下さい。

昭和15年9月25日印刷 昭和15年10月1日發行 (定價金1圓)

編輯兼發行者 東京市牛込區南町33番地
中 村 孫 一

印刷者 東京市神田區美土代町16番地
島 連 太 郎

印刷所 東京市神田區美土代町16番地
三 秀 舍

東京市麴町區丸ノ内3丁目6番地

發 行 所 社 團 土 木 學 會
法 人

電 話 丸ノ内(23) 3945番, 振替口座東京16828番

土木學會役員 (昭和15年度)

理事	會長 中 和 稻	副會長 村 田 葉	總務部長 謙 重 兵	調查部長 一 辰 衛	副會長 谷 稻 瀨	口 葉 尾	三 通 達	鄭 彦 也	副會長 長 廣 富	編輯部長 吉 廣 富	次 六 正	德 永	田 永	田 永	鄭 彦 也				
常 議 員	青 山 秀 岡 田 尾 達 瀧 本 伊 之 松 本 伊 之	雄 賀 也 吉	井 金 富 水	關 子 永 谷	正 正 當	雄 根 義 起	稻 倉 百 目	葉 田 武 黑	樞 二 一 平	兵 玄 定 雄	稻 春 廣 和	葉 藤 瀨 田	通 眞 六 重	彦 三 郎 辰	大 鈴 藤	阿 木 井	網 木 井	三 治 郎	三 治 郎
關西支部役員	支 部 長 支 部 長 議 員	平 泉 員 下 三 大	野 谷 原 間 島 野 島	正 次 仲 四 太	雄 郎 榮 都 郎 郎	大 川 田 柳 稻	野 上 村 田 浦	唯 留 義 巳 鹿	柳 吉 正 夫 誠	沖 河 辻 山 大	野 原 井 本 森	政 次 一 義	次 郎 助 郎 文	次 郎 助 郎 文	野 林 口	竹 忠 威	四 次 威	郎 勇 郎 夫	郎 勇 郎 夫
東北支部役員	支 部 長 支 部 長 議 員	金 飯 勝 佐 清 內	森 島 目 野 田	誠 之 清 暢 泰	之 助 二 銃 三 郎	上 上 佐 高 門	野 山 藤 橋 澤	節 經 次 清 利	夫 亮 郎 藏 三	岡 後 庄 結 近	崎 藤 司 城 藤	信 季 太 朝 信	雄 鶴 郎 恭 一	雄 鶴 郎 恭 一	叶 俊 海 深	藤 田 井	久 浩	磯 吉 清 三	磯 吉 清 三
北海道支部役員	支 部 長 支 部 長 議 員	小 河 善 町 大 坪	野 合 寺 喜 久 喜	諒 毅 秀 利 久 太	兄 一 郎 巨 郎	小 鷲 山 高	出 部 岡 橋	豐 屋 信 敏	郎 平 吾 郎	佐 奈 板	伯 良 倉	利 部 忠	吉 松 三	吉 松 三	杉 平 笠	森 尾 谷	文 俊	彦 雄 幸	彦 雄 幸
中部支部役員	支 部 長 支 部 長 議 員	田 安 大 杉 田 永 比 小	淵 部 串 山 邊 田 企 山	壽 三 太 次 良 民 廣 清	郎 郎 郎 郎 忠 治 孝	石 大 鈴 土 花 伊 松	川 島 木 井 吹 本	榮 六 源 又 金	郎 男 二 良 郎 紀 吾	上 大 鈴 中 星 今	井 西 木 野 泉	兼 英 鹿 忠 茂 三	吉 式 象 義 樹 郎	吉 式 象 義 樹 郎	大 城 千 中 鸞 葉	石 戶 田 村 尾 野	石 戶 田 村 尾 野	巖 吉 重 輔 龍 嗣	巖 吉 重 輔 龍 嗣
西部支部役員	支 部 長 支 部 長 議 員	西 阿 釘 德 山 安	田 部 宮 田 本 藏	一 文 之 善	精 郎 警 作 格 輔	伊 小 三 吉 大	藤 早 瀨 田 野	百 貞 三 彌	世 三 郎 七 博	河 志 三 岡	合 道 原 部	鐵 二	清 造 久 郎	清 造 久 郎	菊 寺 八 長	池 田 等 久	英 清 保 信	彦 爾 高 夫	彦 爾 高 夫
朝鮮支部役員	支 部 長 支 部 長 議 員	新 池 久 武 符 山 山	田 神 保 居 山 岡 本	次 重 田 次 義 敬 佳	鄭 政 豐 郎 雄 介 六	市 濟 長 橫 野	村 水 鄉 井 上	幸 衛 增 四	定 次 二 治 郎	江 橋 伏 星	崎 葉 島 信 治	義 孝 九	人 平 郎 雄	人 平 郎 雄	川 鈴 本 星	澤 木 間 野	章 坂 孝 三	明 鐘 義 郎	明 鐘 義 郎
會誌編輯委員	委 員 委 員	廣 安 佐 本 左	瀨 藤 藤 間 合	六 敏 輝 正	郎 一 雄 仁 雄	大 友 松	石 永 村	和 孫	勇 夫 治	岡 堀 吉	巖 大 次	一 三 郎	一 三 郎	黑 藤	深 野	喜 義 代	治 男	治 男	

正誤訂正表

トラスの安定不安定の判別に就て

(第26巻第10号所載)

頁	行	誤	正
920	上より19行目	とある。	とする。
"	式(1)の第2式	$+ \mu_a P_a$	$+ \mu_a P_a$
921	下より18行目	明かに安定が成立し	明かに釣合が成立し
922	下より3行目	格點は一つもない	格點は一つもない
"	下より1行目	任意の1部材	任意の1部材
923	式(5)	$S_1 = -\frac{Z_0}{Z_1}$	$S_1 = -\frac{Z_0}{Z_1}$
924	下より18行目	-10の如く	圖-10の如く
"	下より10行目	上にもなければ	線上にもなければ